

みうらトーク&トーク 令和6年度第2回

<日時>

令和6年8月28日(水)
18時30分~19時30分

<テーマ>

伝統芸能の継承について

<参加者>

菊名あめや踊り保存会
代表ほか20名



<概要>

菊名あめや踊り 保存会 池田代表挨拶

菊名あめや踊りは、もともと男性だけで伝承されてきて高齢化等で中断していたが、平成20年に地域の女性を中心に復活して約15年経過した。地域の女性がやっているだけ、という形になってしまうのでは、という懸念もあり、地域の子供達に参加してもらい、その後、学校にもご協力いただき、今では18人の子供達に参加している。

子供達の参加を検討した当初は、「子供達がやっても続かないのでは」とか「お客さんが来ないのでは」などの声もあったが、徐々に定着して、組織的にも大きくなってきた。

運営を継続していくためには、「人・モノ・お金」が常に課題になる。子供達の衣装を手作りして経費を節約し、またご祝儀をいただいたりして運営しているが、やはり財政難である。そういった状況なので、今回のトーク&トークでは、皆さんからもご意見をいただき、また、今後も様々な面でご協力いただければと思う。

市長挨拶

今回、菊名あめや踊り保存会の皆様からトーク&トークのお申込みをいただいた。トーク&トークは、様々な団体や活動をしている皆様と直接お話をさせていただき、その内容を政策に反映していくという形で、年に3回ほど行っている。今回の「伝統文化の継承」というテーマでトーク&トークにお申込みいただいたのは初めてではないかと思う。

伝統文化は、市では文化スポーツ課が担当しており、日頃から皆様のお声をお聞きしていると思うが、このように直接皆様のお話を伺うのは大変良い機会だと考えている。

市としては、地域の伝統芸能はしっかり継承していくべきで、それに対して支援していきたいというのが基本的なスタンスで、皆様がどのような取組をして、そこに市としてどのような支援をしていくか、というのがテーマになると思う。

池田代表からもお話があったが、菊名あめや踊りは長い間中断していたものを地域の皆様が復活させて、そして今は子供達にも継承しており素晴らしい取組だと思う。様々な課題があるということはお聞きしており、本日も忌憚のないご意見をお願いしたい。よろしく願います。

市長

それでは、始めさせていただきます。

初めに、菊名あめや踊り保存会様から現状の課題などについて、説明をお願いします。

菊名あめや踊り
保存会事務局・
菊池氏

前からこのような機会が持てたらと考えていたが、トーク&トークという取組があることを知り、市長にも来ていただき、皆で意見交換をできれば良い機会になると考え申込みさせていただいた。

池田代表から話があったように、菊名あめや踊りを続けていく上で様々な課題がある。

衣装の問題もあるが、放送機材が重要な課題と考えている。現状、機材は寄せ集めで、保存会のものであれば、市や青山会さんからお借りするものもある。毎年、お借りする調整が大変で、会員に機材に詳しい方がいるので様々な工夫をしているが、まだまだ課題がある。必要な機材を揃えていくには、保存会だけではやはり財政的に難しい。

ご祝儀はあるが、以前に比べると3分の1程度で、約50万円強の額しかなく、その中で色々なものを揃えていくことは難しい。そこで、何か補助のようなものがあれば、市に窓口になっていただけたらと思う。

例えば、海南神社の面神楽では、県の補助か何かを受けて素晴らしい衣装を作って、うらりて展示したことがある。私達も以前宝くじの助成を受けたことがあるが、20年以上前だと思う。他にも、民間の明治安田生命関係の伝統文化の助成もある。また、今は文化庁の伝統文化親子教室の補助金、これは昨年の30万円から今年は26万円に下がってしまったが、補助を受けるのに膨大な資料を作成している。そういう時にも市に支援していただければと思うし、また、そのような補助金などの窓口になっていただければと思う。

市も財政的に厳しいと思うが、そういった補助していただける所を探していただきたい。

先ほど話をした海南神社の面神楽などの例や、また、三戸のオショロ流しも三戸の伝統を守っていくということで、一括で補助を受けられるような話を伺ったことがあり、何か工夫していただければと思う。

機材については色々と調べていて、50~60万円くらいかかるのでは、というところで、私たちが自前で使える機材を揃えられれば、と考えている。

2番目に、観光パンフレットについて。観光協会や市のパンフレット、また、駅においてあるパンフレットなどを見ても、菊名あめや踊りが全く触れられていない。また、インターネットで調べても少ししか出てこない。海南神社の関係は多く出てきて、これだけが三浦市の伝統芸能のように見えてしまう。

確かに、あめや踊りが観光になるか、という論点の一つあると思うが、私は十分に観光客が来てもいいような行事だと思う。市でもPRにご協力いただきたい。ここ数年パンフレットは作っていないように思うが、作る機会があれば、10月23日に菊名あめや踊りがある、という項目を取り上げてもらいたい。また、ホームページも更新してもらいたい。

3番目に、市では以前、伝統芸能大会を行っていたと思う。毎年実施していたものが隔年になり、最近では実施されていない。財政的な問題はあると思うが、三浦市には素晴らしい伝統芸能が残っているということを市民の皆様へPRする機会を設けてもらえればと思う。横須賀市では文化会館で行われている。最近では呼ばれないが何年か前までは毎年出て

いた。三浦でも是非お願いしたいと思う。

最後に、最近の市の職員は、市のことを知らな過ぎる。三浦市出身者が少なく、市外からきている方が多いのかなと思う。字名を言っても分からないし、また菊名のあめや踊りも見たことがない方が大多数だと思う。昔は、市に話をすると、上席者が声をかければ職員がすぐに集まった。今はいろいろと時代が変わって難しい面もあると思うが、職員にも地域の行事などについて、もっと知って積極的に関わってもらいたいと思う。

市長

今、様々なお話があったが、現在の私の見解や今後のことについてお話しする。

まず、放送機材に関連して。音源のテープ自体が古くて、雑音が入っている。その件について、県の文化の担当にも相談し、ディスクにして音質を良くできないかという相談をした。詳しい職員からその件について、まず説明してもらおう。

文化スポーツ課

今日はちょうど県の担当が来ているので、説明をお願いできるか。

県文化遺産課

それでは、その件について少し説明させていただく。東京文化財研究所という補修等も専門にしている機関があり、雑音を除去できないか相談したところ、どのくらいの予算で、どのくらいのクオリティーを求めるか、ということが問題になってくるということ。今はそこで止まっている。こちらでも音源を聞いてみて、このくらいでどうかという相談をさせていただくので、三浦市側でも、どのくらいの音質を求めるかなどの要望を出していただければ、それを併せて東京文化財研究所に伝えて相談することはできる。

市長

いろいろと動いてくれているが時間がかかっている。音源については、もし譜面のようなものが残っていれば、演奏して新たに音源のディスクを作る方が早いのかもかもしれないが、それはどうか？

参加者

昔は、生で唄っていたと思うので、譜面のようなものは無いと思う。また、唄える方がいて、音響の良い場所で録音すれば音源ができると思うが、もういられないので、それも難しい。やはり、今ある音源をクリアにしていく方法しか無いのではと思う。

**菊名あめや踊り
保存会事務局・
菊池氏**

踊りは復活できたが、唄の復活が今後の一番の課題である。2代前の会長が一人で全て覚えていて、何人かで一つのマイクで唄っていた。今ある音源は、自分が撮っていたビデオでスピーカーから流れる音を拾ったもの。そういう音源なので、近くにいた子どもや観客の声など雑音が入り、クリアではない。マイクを何本か立てて、クリアな音源を残そうと考えていた矢先に2代前の会長は体調を崩されて、そこまで至らなかった。やはり今ある音源を何とかクリアにできないかと考えている。

市長がおっしゃった譜面については、まだ青少年会館が使えた頃に、踊りの伝承が途絶えてしまうということで県の文化財保護の担当が、青少年会館で踊りを三方から録画したことがある。その時の資料としてVHSの映像があり、また、その際に唄も譜面に起こしてくれたので一部譜面はあるが全てではないので、完全な譜面は無い。

市長 文化スポーツ課では、今の話は承知しているか。

文化スポーツ課 譜面の話は、承知していない。

市長 状況は理解した。音源以外では、音響設備については、予算化すれば済む話。三浦市は財政が厳しいと言われているが、一時よりは良くなっている。職員には何か事業を行う時には補助金などの財源を確保するように言っているが、色々な取組に予算を組むことが少しはできるようになってきた。また、ふるさと納税で目的を指定して寄付してもらい、その目的だけの財源にするというような仕組みもある。スポーツ公園に子ども達の遊び場所を作ったのも、そのような取組で、以前に比べれば財政的には柔軟性はある。あめや踊りは指定文化財であり、市としても協力はしていく。

ただ、これからも長く伝承していくためには、保存会の皆様も、踊りの映像や唄の音源についても残していく方向で動いていただきたい。市の文化スポーツ課が県の文化遺産課と連携して協力はしていく。

音響機材は、今購入すると、どのくらいかかるものか？

参加者 見積を見ると、30万円くらいあれば、何とか一式揃えられるのではないかと思います。最低、ワイヤレスマイクが4本使える機材を購入したいと考えている。それ以外は昨年までの機材を使えると思う。ワイヤレスの機材は叩かないと音が出ないような状態なので、それだけは新しく購入しないと本番が怖い。

市長 今年は予算が間に合わないが、来年度に向けて揃えられるようにしたい。また、市でも消防用やチェルシーで新しい機材があるのではないかと思います。そういったものが貸し出すことができないのかも確認する。

参加者 お借りできるなら、本番当日だけだと対応できないので、事前の練習でセッティングして試して使ってみる必要があり、1か月とは言わないが事前にお借りできればと思う。

市長 確認して、貸し出しができるようであれば調整する。

音響の件は、そのような動きをする。ただ、長いスパンで見れば、音源や唄の継承の問題がある。そこは、市と保存会で相談するだけでは不足するので、県や様々な関係機関と連携して保存会での取組をお願いします。

市長 次に、観光パンフレットやホームページでのPRについては、お話のとおりのところはある。海南神社のチャッキラコがユネスコの無形文化遺産ということで世界的な登録をされていて、その関係で海南神社に関連する伝統芸能が前面に出るということはある。ただ、伝統芸能で国・県指定の無形民俗文化財ということで言えば、市内では、チャッキラコと三戸のオショロ流し、菊名のあめや踊りの3件だけなので、あめや踊りが劣後しているということではなく、パンフレットやホームページでのPRについては、市でも検討する。

市長 次に、伝統芸能大会について、これは過去にどのように開催していたかというのが、私自身もあまりよく覚えていない。市で伝統芸能大会をやるということになれば、市内の各団体も協力はしてくれると思うが、それぞれ準備も大変になる。県では毎年伝統芸能の催しを大きなホールで開催していて、県内各市町村から参加しているし、三浦市内の団体も参加している。そういった所に参加していく方が良いのではないかと思うが、いかがか？

参加者 私や今日参加している皆も同じ意見の人が多いが、県の開催する催しは、はまぎんホール（横浜市西区）で行われるので、遠くて見に来ることができないお年寄りが多くいる。うらりの市民ホールに立派な舞台があり、そこで開催すれば、皆見に来ることができる。菊名のあめや踊りを見るのは外で、開催される10月23日は寒く、また足元も良くない。自分達も、市内に住んでいてチャッキラコやいなりっこなどをしっかり見たことがなく、市民ホールに一堂に集まってできれば見ることもできるし、市民の皆さんに知ってもらえるので、市内で集まってできたら、という夢がある。

市長 お話は分かった。他の団体の皆様のご意見も聞かないといけないが、菊名あめや踊り保存会では、もし開催することになれば前向きに検討していただけないかということでした。ちょうど来年は市制70周年の年となる。70周年といっても100周年のような区切りではないので、お金をたくさんかけて派手なことはやらなくても良いと職員には指示している。ただ、せっかくの機会ではあり、70周年の記念として開催できないか検討してみるので、少しお時間をいただく。

参加者 市内のどこの団体も後継者不足などの問題がある中、皆さん頑張っていると思う。他の団体の皆さんとも交流して、一緒に前に進んでいきたいと思う。また、もし開催するとなれば、経費もかかる。他の団体の皆さんのご意見もあるが、有料にしてチケット販売をするのも一つの方法ではないかと思う。

市長 市内の各団体が交流するというのは良いことだと思う。有料化については、ご意見として承った。

参加者 他の伝統芸能はどのように行われているのか。例えば、いなりっこも見る人は外で見ると思うがどうか？

市長 拝殿で奉納し、見る人は外で見ると。時期はいつ頃だったか？

文化スポーツ課 いなりっこは、2月に奉納する。それ以外に、いなりっこ独自で市民ホールを借りて、10月に発表会を行っている。

市長 最後に、市の職員が市のことを知らな過ぎるというご意見について。職員の採用については、居住地を条件にすることは認められないので、市内在住者を選んで採用していくと

というのは難しい。退職して、横浜市や都内に転職する職員がかなりいる。三浦市だけの問題ではなく、三浦半島地域の他の自治体でも同じような話を聞く。

また、職場環境も大切になってくる。職員も、長い間、古い庁舎で頑張ってくれていて、何とかしたいという思いだった。ようやく引橋の新庁舎移転の検討が進んできている。新しい庁舎になり職場環境が改善されれば、採用の上での大きな要素にはなるのではないかなと思う。ただ、職員が市のことを知らなすぎるといふご意見については、教育不足もあるのかもしれない。

参加者 やはり、興味・関心を持ってもらうような指導などが必要ではないか。

市長 職員は、職場をローテーションで変わっていく。中には専門職のような方も少しはいるが、何年かで職場を変わっていく。指導の仕方もあるかもしれないし、それぞれの職員の気持ちの持ちようだと思うので、その辺りは十分に注意していきたい。

職員は税金から給与を支給されており、市民の皆様にとどのような結果を残せるのが重要となるし、理解して取り組んでくれているとは思ふ。ただ、菊池氏のおっしゃる昔の職員とは、やはり時代も変わってきており、今はハラスメントなど色々と注意しながら指導しなければならないということもある。

参加者 三浦市だけでなく、最近では、職員が入れ替わることが多いということだと思う。そこで、仕事についてしっかり記録して引き継いでいくことが重要になる。

市長 おっしゃる通りで、市役所の業務については統一的なマニュアルのようなものが無い。自分のサラリーマン時代には業務に関する様々な規定がしっかりしていた。市に来たら、そういったものが無い。三浦市では業務をマニュアル化するように指示を出して取り組んできた。それでもたまにミスは出る。細かいところまでは難しいが、誰が担当しても一定度の水準を保てるようにマニュアル化することも重要なことだと考えている。

市長 それでは、本日もご提案いただいた内容については以上になるが、他にご意見があればお聞きしたい。菊名あめや踊り保存会以外の内容でも、何かご意見あればどうぞ。

参加者 この菊名あめや踊り保存会の活動を続けてきて、地域で何年も他のご家庭のお子さんを預かっていると、子ども達にとって家庭で自分の親や家族と過ごす以外に、仲間や他の大人と関わる場所があるというのは、とても大切なことではないかと感じる。

子ども達にとって、学校は学ぶ場だし、家に帰ると親に気を遣うこともある。ここで、たまに会う近所のおじさんやおばさんの前では伸び伸びしている。家とは違う顔を出せる、人間として違う色を出せる場所があるというのは人の成長にも大切なことではないかと思う。この活動は良い仲間が増えてきているので、こういう場は大事にしていきたい。

三浦市は「人よし、食よし、気分よし」でとても温かく良い場所だと思う。自分は横浜生まれ横浜育ちで、三浦に嫁にきて20年経った。三浦市に来て良かったと思うし、外から三浦に来た人からも、三浦は良い人が多いとよく聞く。

市長

確かに、地域の大人が子ども達と接して、教える場があるということは、情緒もあり、とても良いことだと思う。また、菊名あめや踊りに限らず、伝統や文化を継承していく上では、子ども達に伝えていかなければならないし、それが大人の責任だと思う。市としても、そのような取組を後押ししていかなければならないということは十分認識している。

市の職員は、市民の皆様の考えや意見をお聞きしながら具現化していくのが仕事いつも指導している。担当の文化スポーツ課は、もともと生涯学習という観点から教育委員会の所管だった。ただ、文化やスポーツは、観光の側面もあるし、また、広く市民の方に参加してもらいたいという考えから、数年前に市民部に組織変更を行った。昔の方は、教育の一環として教育委員会で担当しているというイメージだと思うが、今はいろいろな自治体でも観光や市民生活に直接関連するということで組織を変えており、三浦市でもそのようにさせてもらった。他に何かご意見は。

参加者

先ほども話が出たが、各団体の交流を進めるのは必要だと思う。どの団体も後継者不足や継承など様々な問題があると思う。各団体内で課題を整理して明確にしてから、それを持ち寄って共有して、共通の課題があれば、それに対してどのような対応が良いか検討すれば、効率化が図れるのではないかな。市にも、各団体が個別に相談するより共通の課題などを整理した方が効率的だし、市の職員の方も税金で働いていただいているので、そういったことも重要だと思う。

市長

お話は分かった。市民の皆様の活動については、役所に依存しないで行うことが重要だと考えている。菊名あめや踊り保存会のように参加者の皆様が自主的に行っているところは長く続いている。例えば、みうら夜市というイベントがあり、商店街の活性化ということで、市が提案して始めたが、市が主導で行うのではなく、実行委員会でいろいろと検討してもらおうようにして行って、良い形で継続できるようになってきた。開催時期も、お盆の時期にやっていたが、真夏は暑過ぎるし、飲食など様々な問題があるので、これも地元の方のご意見で10月に開催することになった。

**菊名あめや踊り
保存会・池田代
表**

三浦市民謡協会で盆踊りを8月に行っているが、お祭りや花火もなく出店も出ないと、踊っている人だけのイベントになってしまう。盆踊り自体は、例えば、三崎甚句、ダンチヨネ、三崎港音頭など、三浦市の伝統・文化を継承しているもので、徐々に無くなっていく危機感があり、どのように残していくかという課題があると感じている。

市長

確かに、盆踊りもやっているところが少なくなっている。そういったご意見があることも認識した。他にご意見は。

参加者

せっかくの機会なので、区民会館の建設の関係で教えていただきたい。以前、宝くじの関係の助成金があったと思うが、今もあるか。また、どのように相談するものか。

市長

今も宝くじの助成金で区民会館建設の補助の制度はある。市民協働課で担当している。

市民協働課 毎年、春の区長会総会で、翌年度に助成金を受けるためのスケジュールなどについてお知らせしている。例えば、今年度の総会では、来年度に補助を受けるためのスケジュールなどについて説明した。

まずは区の中で、いつ頃建て替えをしたいか、どのくらい費用がかかりそうかなど、確認していただき、ご相談いただければと思う。

市長 本日、話の出ていた音響機材などについても、助成金の対象にならないか確認する。菊名あめや踊りの会場については、区民会館脇を舞台にして行わなければならないのか。例えば、南下浦小の体育館で行うという選択肢はないか。

**菊名あめや踊り
保存会・池田代
表** 江戸時代から続く郷土芸能である菊名あめや踊りの雰囲気伝えていくためにも、やはり、会場はこの区民会館脇の掘立小屋のような場所で、薄暗く幻想的な中で行うのが相応しいと考えている。

市長 場所についてもこだわりを持って継承しているということを理解した。
それでは、時間になるので、終了させていただく。
本日は、貴重なご意見をいただき感謝する。

※公表については了承を得ております。